

I. 日本・韓国青年親善交流事業「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」

第1章

日本・韓国青年親善交流事業「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」

事業概要

<目的>

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和59年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、昭和60年の日韓国交正常化20周年を機に、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の傾向が収まらず、参加青年の安全を確実に確保することは困難と判断せざるを得ないことから、「日本・韓国青年親善交流事業」を含む、令和2年度の内閣府青年国際交流事業はすべて中止としたところである。しかしながら、現代はオンラインの活用により海外の青年同士が瞬時につながることができる時代でもあり、こうしたインターネット技術を活用し、代替的な国際交流の場、そして新しい試みとして日本・韓国青年親善交流事業「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」を開催することとした。

<実施概要>

- ◆本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「より良い日本と韓国の社会のために私たちにできること」

(サブテーマ)

- ◆ジェンダー
- ◆SNSのあり方とコミュニケーション
- ◆ソフトパワー

(2) 日本参加青年の参加資格及び求める人物像

- ◆おおむね18歳から30歳までの日本国籍を有する者
- ◆韓国に対する興味・関心があり、積極的に交流する意欲がある。
- ◆主体性を持ってプログラムにのぞむことができる。
- ◆事業参加後も継続して韓国青年と交流し、参加経験をいかしていくことができる。
- ◆日本代表青年としての役割を自覚し、日本代表としてふさわしい振る舞いができる。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 12名

韓国参加青年 12名

(韓国参加青年は韓国側が選考)

(4) 日程

- ◆ オンライン事前研修
 - 1日目: 令和2年11月6日(金)
 - 2日目: 令和2年11月14日(土)※両日とも13:00~17:00で実施
- ◆ 韓国青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」
 - 1回目: 令和2年11月21日(土)
 - 2回目: 令和2年11月22日(日)
 - 3回目: 令和2年12月5日(土)※全日程において、13:00~17:00で実施
- ◆ オンライン事後研修
令和2年12月13日(日) 13:00~17:00
- ◆ オンライン事業報告会
「日中代表ユースフォーラム」と合同で実施:
令和3年3月13日(土) 14:00~17:30

※プログラム実施:

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

事業評価アンケート

I 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和62年度に開始された事業である。

本事業は、日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、韓国政府と協議の結果、当初予定していた派遣・招へいによるプログラムを中止し、オンラインにて「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」を実施することとし、同つどいにて、日韓青年同士のグループ別ディスカッション、文化交流、成果発表会等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①プログラムの満足度

「日韓青年親善交流のつどい@オンライン 11月21日、22日の全体の満足度」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4以上を付け、非常に高い評価であった。

また、「日韓青年親善交流のつどい@オンライン 12月5日の全体の満足度」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは「初めて出会った韓国青年とも打ち解けられ、本音でディスカッションできるようにプログラムが組まれていた」「オンラインだったのにも関わらず、コンテンツが充実していた。みんなとの交流が一旦終わってしまうのが寂しくも感じた」「二週間という期間を挟んだからこそ、思い出深く、名残惜しくて、最後は非常に感動的だった。心から事業に参加して良かったと思った」とのコメントがあった。

このことから、オンライン上であってもプログラムの多様さがプログラムの満足度に大きな影響を与えることが分かる。また、交流プログラム2日目と3日目の間に2週間の間隔があったことで、青年たちはプログラムをより意識することにつながったのではないかと考察できる。

②事前研修の満足度

「事前研修 11月6日 全体の満足度」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4以上を付け、極めて高い評価であった。

また、「事前研修 11月14日 全体の満足度」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「交流本番に向けて、自分のやるべき事やもっと勉強しなければならない事がはっきりした」「最初は不安があったが、オンラインでも一緒にいるような感覚で安心できる雰囲気だった」とのコメントがあった。

このことから、オンライン交流にも事前の学習や準備が必要なこと、また、通常と同じように互いを感じられるような雰囲気作りが非常に大切だと考察できる。

③事後研修の満足度

「【事後研修】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「今までやってきたことを振り返り、整理することが出来た。」「みんなで意見を共有することで、体験を上手く言語化することができた」とのコメントがあった。

このことから、参加青年たちが互いに評価し、考えを共有できる事後研修は非常に有益であることが分かる。また、参加青年たちは所属するグループの中で各々が役割を見出し、それぞれ貢献したいという意識が芽生えていたことも分かった。

2. 日本参加青年の成長

① 個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

・「コミュニケーション能力」:
4.2 から 4.8 となり、0.6 ポイントの増。

・「多文化に対応する適応能力」:
4.6 から 5.3 となり、0.7 ポイントの増。

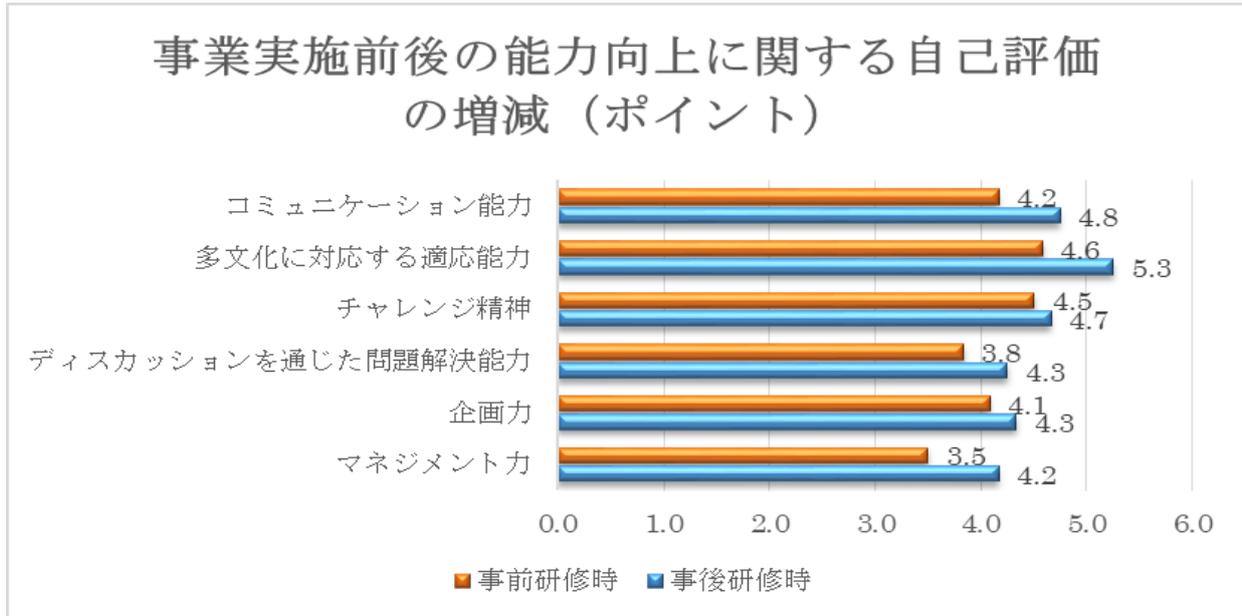
・「チャレンジ精神」:
4.5 から 4.7 となり、0.2 ポイントの増。

・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:
3.8 から 4.3 となり、0.5 ポイントの増。

・「企画力」:
4.1 から 4.3 となり、0.2 ポイントの増。

・「マネジメント力」:
3.5 から 4.2 となり、0.7 ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)



伸び幅が最も大きかったのは、「多文化に対応する適応能力」と「マネジメント力」であった。「多文化に対応する適応能力」は、オンライン交流において韓国参加青年の異なる文化や、考え方の違いを目の当たりにし、その差異を認めつつどのように受け止めるのかを日本青年それぞれが考え、対応したため向上したものと考察できる。

また、「マネジメント力」は、日本青年のほとんどが初めてオンライン交流に参加する中で、グループごとに役割分担をしながらそれぞれが自分にできることを最大限考え、実践したことで向上したものと考察できる。

その他の項目も軒並み上昇しており、本事業への参加が個人の能力の向上に大きな影響を与えていることが分かる。

② 個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階(6=非常に思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

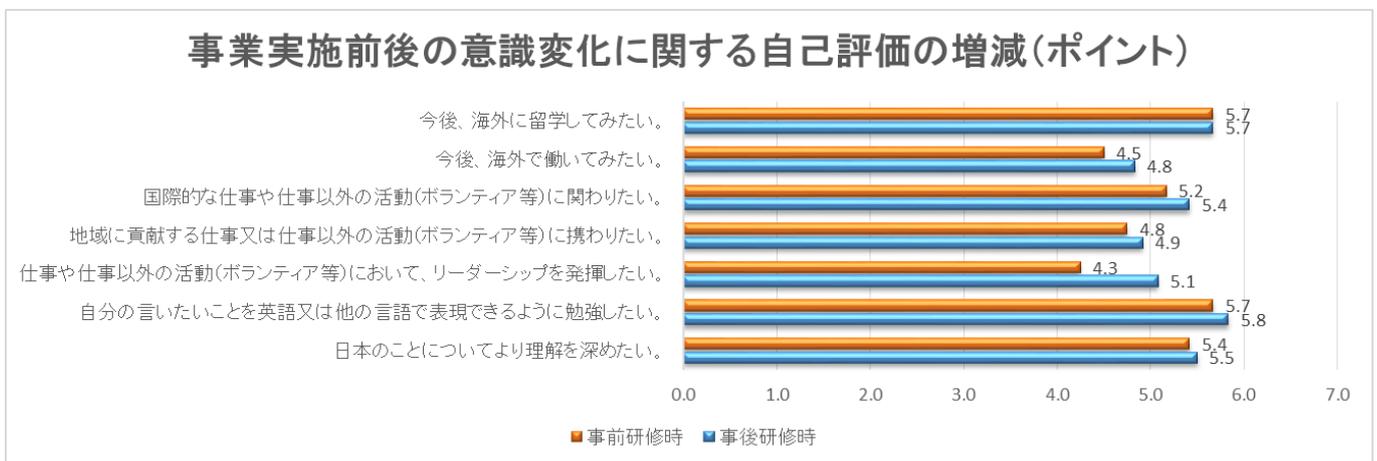
・「今後、海外に留学してみたい。」:
5.7 から 5.7 となり、増減なし。

- ・「今後、海外で働いてみたい。」：
4.5 から 4.8 となり、0.3 ポイントの増。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：
5.2 から 5.4 となり、0.2 ポイントの増。
- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：
4.8 から 4.9 となり、0.1 ポイントの増。
- ・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」：
4.3 から 5.1 となり、0.8 ポイントの増。
- ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：
5.7 から 5.8 となり、0.1 ポイントの増。

- ・「日本のことについてより理解を深めたい。」：
5.4 から 5.5 となり、0.1 ポイントの増。
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

全ての項目でポイント数の上昇が見られるが、「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」については 0.8 ポイントと大きな上昇が見られた。

これは、今回事業の既参加青年を事前研修から事後研修まで常に青年のリーダー役となるファシリテーターに任命したことで、青年たちは様々なリーダーシップの在り方を直接目にし、学ぶことで、リーダーシップに対する考え方により影響があったものと考察できる。



Ⅲ 総括評価

「プログラムの中で一番印象に残ったことは何ですか」の問いに対して、「最初の沈黙とチグハグさから、ライフチャートでお互いのバックグラウンドや社会について話すことができたこと」「最後の一人一人感想を言う時間。オンラインなのに皆同じ温かい気持ちになったのが実感できたので印象に残っている」「最後に全員が泣いている姿」とのコメントがあった。

このことから、最初はぎこちなかった日韓の青年たちも 3 日間のオンライン交流で互いを知り、親近感を覚えたのではないかと考察できる。

「運営メンバーに依頼したい改善点や感想・コメント等があれば教えてください」の問いに対して、「オンラインでもこんなに関係性が作れるのだと実感し、今後に希望を持った」「自信を持たず、後悔で終わるはずだった大学

生活の最後に、このような素敵なプログラムに参加できたことを本当に誇らしく思う」「プログラムの進行だけでなく、参加青年の雰囲気も考えながら取り組んでくれて、とても心地よく事業に取り組むことができた」とのコメントがあった。

このことから、オンライン交流プログラムでも参加青年に寄り添いつつ多様性のあるプログラムを作ることで参加青年たちの満足度を高めることができると考察できる。

以上、評価結果から導き出せることは、本事業の目的である「日本と韓国の相互の友好と理解の促進」に関して、日本参加青年は韓国への理解や交流プログラムの高い満足度を示すなど、十分な成果を収めたものと評価できよう。

研修日程等

<オンライン事前研修 1 日目>

令和2年 11 月 6 日(金)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:20	0:20	オープニング・オリエンテーション
13:20	～	14:00	0:40	自己紹介・アイスブレイク
14:00	～	15:00	1:00	有識者講師によるディスカッション(基礎) 講義・質疑応答
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:30	0:20	グループワーク①国際交流について
15:30	～	16:30	1:00	グループワーク②自己課題・目標の言語化・意見共有
16:30	～	16:40	0:10	係決め
16:40	～	17:00	0:20	クロージング

<オンライン事前研修 2 日目>

令和2年 11 月 14 日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:30	0:30	オープニング・係別オリエンテーション
13:30	～	15:00	1:30	韓国事業に造詣の深い有識者講師による講義・質疑応答
15:00	～	15:15	0:15	休憩
15:15	～	16:15	1:00	グループワーク①オンライン交流当日のディスカッション準備
16:15	～	16:25	0:10	休憩
16:25	～	16:50	0:25	グループワーク②系の活動内容を策定・全体共有
16:50	～	17:00	0:10	クロージング

<韓国青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」>

1日目(令和2年11月21日(土))				
日本・韓国時間			時間枠	内容
13:00	～	13:20	0:20	開会式 挨拶(ビデオメッセージ) 内閣府 青年国際交流担当室長 酒田 元洋 韓国政府 女性家族部青少年家族政策室長 ユン ヒョシク
13:20	～	13:30	0:10	オリエンテーション 3日間の流れ・ディスカッショントピックの説明
13:30	～	14:00	0:30	自己紹介
14:00	～	14:10	0:10	休憩
14:10	～	15:00	0:50	グループワーク(ライフチャート)
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	16:05	0:55	ディスカッションⅠ
16:05	～	16:15	0:10	休憩
16:15	～	16:45	0:30	文化交流(韓国文化)
16:45	～	17:00	0:15	クロージング

2日目(令和2年11月22日(日))				
日本・韓国時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	イントロダクション
13:10	～	13:30	0:20	アイスブレイク(チェックイン)
13:30	～	14:10	0:40	ディスカッションⅡ
14:10	～	14:20	0:10	休憩
14:20	～	15:00	0:40	ディスカッションⅢ
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:40	0:30	文化交流(日本文化)
15:40	～	15:50	0:10	休憩
15:50	～	16:45	0:55	ホームグループについて
16:45	～	17:00	0:15	クロージング

3日目(令和2年12月5日(土))				
日本・韓国時間			時間枠	内容
13:00	～	13:20	0:20	イントロダクション アイスブレイク(チェックイン)
13:20	～	14:40	1:20	ディスカッション成果発表
14:40	～	14:50	0:10	講評
14:50	～	15:00	0:10	休憩
15:00	～	15:45	0:45	ホームグループ成果発表
15:45	～	15:55	0:10	休憩

15:55	～	16:40	0:45	参加青年による振り返り
16:40	～	17:00	0:20	閉会式

<オンライン事後研修>

令和2年 12月 13日(日)				
時間		時間枠	内容	
13:00	～	13:20	0:20	オープニング これまでの振り返り・全体共有
13:20	～	13:50	0:30	報告会準備
13:50	～	14:00	0:10	日本青年国際交流機構(IYEO)による事後活動の事例紹介
14:00	～	14:10	0:10	休憩
14:10	～	15:20	1:10	グループワーク①振り返りワーク
15:20	～	15:30	0:10	休憩
15:30	～	16:00	0:30	グループワーク②振り返りワーク全体共有
16:00	～	16:20	0:20	事後研修の振り返りと報告会について確認事項共有
16:20	～	16:30	0:10	まとめ

<オンライン事業報告会>

令和3年3月13日(土)					
	時間		時間枠	内容	
	第1部	14:00	～	14:05	0:05
14:05		～	14:35	0:30	令和2年度日韓青年親善交流のつどい@オンライン参加青年による報告及び質疑応答
14:35		～	15:05	0:30	令和2年度日中代表ユースフォーラム参加青年による報告及び質疑応答
15:05		～	15:40	0:35	両事業参加青年によるパネルディスカッション及び視聴者との意見交換
15:40		～	15:50	0:10	IYEOからの総評
	15:50	～	16:00	0:10	休憩
第2部	16:00	～	16:05	0:05	オープニング
	16:05	～	16:30	0:25	内閣府青年国際交流事業説明 ・日本・韓国青年親善交流事業 ・日本・中国青年親善交流事業
	16:30	～	17:25	0:55	ファシリテーターによる講話及び質疑応答 「事業参加経験から現在の自分に至るまで」
	17:25	～	17:30	0:05	クロージング 参加青年代表挨拶

※2 事業合同で実施